

北社会ニュース 第14号

2005-7-20

発行：鈴木壮夫

私の昭和31年・夏物語

麻喜応援団長はじめ高9回の先輩の皆さん、本日は北社会にご参加いただきありがとうございました。私は2年後輩の高11回生です。ほぼ半世紀前になってしまいましたが、私の64回の夏の中でも「昭和31年」は特別な夏でした。お二人の言葉が耳に残っております。

「今年は甲子園に行くぞ！」 麻喜応援団長（入学直後の対面式での檄）

「世間で二高が高い評価を得ているとしたら、それは伝統や進学先ではなく、君達ひとりひとりの能力と日々の努力だ」 スガメ先生

二高入試が間近の春先、石原慎太郎が「太陽の季節」で芥川賞を取り、上杉山中のクラスで「障子に突き立てる」ことが男同士の話題になった。入試の不安とは別に、未知の世界への踏み込みが始まった。上中から70数人が受験して60数人が合格した。その中で私のランクは「中の下」、苦手な音楽と理科でヤマ(?)が当たったので、不遜にも合格は疑わなかった。それでも、友人から「ソープの名前もあったぞ」と電話をもらいホッとした。「白線」の帽子を被れることが誇らしかった。東体育館の合格貼り出しを見て、東一番丁の高山書店に行き「太陽の季節」を買った。この本は今でももっています。

入学式の翌日、バスケットコートがあった西体育館で上級生達との対面式が開催され、ヤジが飛びかう手荒い歓迎を受けた。初めて体験する「オトナの男の集会」だった。会場が一瞬静まり返り応援団長が登場、胸をそらし、「今年は甲子園に行くぞ！」と檄を飛ばした。一際高い喚声が会場に上がった。「出来もしないことをよく言うちゃ」「これが応援なのか」と静かに聞いていた。

定期戦の応援練習は楽しかった。しみじみと二高生になれた喜びを満喫していた。最初の実力テストがあった。担任の寺田先生（生物）に呼ばれ、「鈴木、キミはクラスで最下位」と告げられ、「二高に入ったのもマグレだぞ」と先生は励ましたのかもしれないが畜生！と反発心だけが燃え上がった。クラブ活動もせず、勉強したが成績の向上はなかった。そんな時、スガメが授業中私達ひとりひとりを励ました。支えられました。感謝です！

野球の応援は全部行った。甲子園に行けるなんて思ってもいなかったのだから、「今日行かないと明日はない」そんな連続だった。磐城高に勝ち甲子園出場を決めた日、夜行列車でボーイスカウト日本ジャンボリー参加のため軽井沢に向かった。皇太子殿下・鳩山首相を間近に拝謁、一つの思い出になった。甲子園野球は学校でTV観戦した。臨場感あり、連帯感あり、楽しかった。不可能と判断せず、先ず「意志」を決めて努力していく、「幸運」が手助けしてくれることもある、フレフレ！！15才としては大きな経験でした。そして、9月の実力テストでは200数十人を一気に抜いて「99番」に貼りだされた。やっと二高生に認知され、「吹奏楽部」に入部しました。忘れられない「私の夏物語」でした。

高9回の先輩に質問。「高10回まであり、11回より削除された校則は何でしょうか？」

来月以降の講演と口演予定

8月17日(水) 田村精誠氏(高25回) -若手起業家-

本日も出席しておりますが私の同期・福原卓彦君は「出光」退職後ベンチャービジネスに関わっており、多くの起業家と会っております。その一人が偶然にも後輩の田村さんだったそうです。田村さんのテーマは次の通りです。

「高度消費社会において、消費者の欲しいを探究し、消費の活性化を目指し、新しいマーケティング手法で来るべき新しい社会に貢献していく」
そば屋の経営にも参考にしたいと、楽しみにしております。

9月21日(水) 堤堯氏(高7回)

堤先輩には全く余計な後輩の戯言なのですが、「堤さんと同窓であるという幸運」に感謝しております。青山先輩から堤先輩の新著「阿呆の遠吠え」を先月寄贈いただき、感想をお送りしました。思いがけず、手紙をご引用頂き下記のコラムになりました。



**阿呆の
遠吠え**

拙著『阿呆の遠吠え』を読んだ蕎麦屋さんから手紙を頂戴しました。

コトは消費税の「総額表示」に絡む。小欄は論じた。なぜ「価格+税」の表示でいけないのか。1000円+税とあれば、現行税率5%なら50円を足せば済む。簡単なことだ。これを「外税」という。

消費税3%増足のおり、ときの財務官僚は外税を嫌い「内税」にしると主張した。値段の表示を「1030円」に変更せよと命じた。表示変更にかかった費用は、出版界だけでも数億円。日本全体でみれば莫大な費用と手間がかかった。3%が5%上がったとき、これの繰り返した。外税にしておけば何の問題もない。なんぞこんなアホを繰り返すのか。外税にすれば税がハッキリ意識される。それが困る。これが役人のココロだ。つまりは税を隠そうとする。小役人のケチな料簡が日本中に迷惑をかけている(108回)。

蕎麦屋さんは店頭に貼り紙を出した。「当店では消費税を別として表示しております。消費税はお客様より一時的にお預かりしている税金です。従来どおり「外税」にて価格を表示させていただきます。」

**「消費税総額表示」役人のセコイ指示
に逆らうソバ屋の爽やかな反骨心**

長いものに巻かれる日本人の習性脱却してこそ日本変わる

つづみぎょう 1961年、東京大学法学部卒。同年、文藝春秋入社。一文藝春秋編集長、第一編集局長、出版総局長などを歴任。常務を経て退社。著書に「昭和の三傑―憲法九条は救国のトリックだったかがある。」

な表示をしてもどうなるものでもありません。でも、小泉さんに引いているんだ、とニヤニヤされるお客さんも少数ですがいらっしゃるのだからと思っております。お客様とのトラブルは一回もごさいません」

昔、大学受験のあり、次の巻について記せという問題が出た。「長いものには巻かれよ」と日本人の習性として答案を書いた。「泣く子と地頭には勝てない」とほぼ同義。地頭すなわち「お上」のお達しに、アホらしいと思いつつ、みんなが従うなら仕様がなやと受け入れる。「お上」のバカげたお達しに、みんなが「ノー」と言えば、ムタは相対に省けるはず。

手紙はさらに言う。「もっと怖いのは、唯々諾々と受け入れてしまっ、この国の人たちです」

蕎麦屋さんの心意気を日本人みんなのココロとしたい。嬉しいお手紙でした。

ある会員の記憶によりますと、4年前五人の拉致被害者が帰国した日、ご口演いただいております。今回も楽しみです。

高11回・同期情報紙 「ピンピン」



還暦を文字通り解釈して「旅立ち」を祈念して同期情報紙「ピンピン」を発行して5年、今年も29人の寄稿者で第5号を130部発行しました。北社会・会員でもある同期が協力し合って作成しております。発行は「東京ピンピン会」です。仙台の地元には必要ない「メディア」かもしれませんが。2009年・第9号を発行する時、私達は卒業50周年です。先ず元気に生きていたい。出版屋も印刷屋も同期にいる。少なくとも50人以上の寄稿者で高11回生の歴史を二高の資料館に置いていただきたい。死ねません！